

# 一貫教育校の広場

幼稚園

横浜初等部

普通部

中等部

湘南藤沢  
中等部・高等部

高等学校

志木高等学校

女子高等学校

ニューヨーク学院  
(高等部)

## 自分たちだけのメロディ

● 中等部音楽科 教諭

たかなぎけいた  
高柳慶太

誰も聴いたことのない、新たに命を吹き込まれたいくつものメロディが音楽室いっぱいに響く。その生まれたばかりのメロディに、生徒たちが真剣に、目を輝かせて聴き入っている。これは、中等部で毎年9月に見られる光景です。中等部では音楽の授業の取り組みとして、3年生の夏休み

合うように調整していくことは大変な作業です。日本語には同じような意味でも多くの種類の言葉があるため、自然と言葉を探し、選び出し、日本語の奥深さを再認識していきます。これらは音楽の授業の枠を飛び越え、生徒にとつてまたとない学びの機会になっていきます。そんな苦労や

に歌曲創作をします。冒頭の場面は、そうして作られた多くの曲の中から12月の音楽会でクラスの曲として発表する曲を選んでいる授業の風景です。全て聴き終わった生徒たちの表情はみな充実感にあふれています。それは、そこに辿りつくまでの長い道のりがあったからにはかなりませぬ。歌曲創作には、歌詞とメロディという2つの大きな山があります。生徒たちはまず、新たなメロディを生み出す困難に直面します。音楽を聴いたり歌ったりするのはあんなにたやすいのに、いざ無からそれを創り出すことは一筋縄ではいきません。試行錯誤しながらやっつと口ずさむことが



と演奏されることもないけど、だからこそ一生忘れない」「自分たちだけの曲が持てるって幸せ」中等部ではこの企画をもう20年以上続けています。この先も数多くの名曲が生まれていくことでしょう。私にとつての秋は、毎年生徒たちの思いが目一杯込められた素晴らしい楽曲と出会える、恵みの秋となっています。

「この曲を歌うのはたった一度で、もう二度

ができるようになったとしても、その旋律を楽譜にするのもまた難儀な作業です。そうして彼らはこんなに身近にある音楽がたった一つ作られるだけでもいかに大変かを実感することになります。次はそのメロディに歌詞を乗せませ

多くの生徒は中等部で過ごした3年間の軌跡に思いをはせて歌詞を作りますが、自分が表現したい言葉が音符の数に